

ルールメイキングプロジェクト+2025

四国対話万博 -TAIWAKU-

～対話でつながる、わくわくする、ともにつくる～

『おもしろい』『だのしい』『から始まる』
新しい学びのかたち
対話の持つ力を実感しました。

四国の小中高生交流

丹原高主催 対話の大切さ実感

松山



ルールメイキングの取り組みや学校の魅力を発表する丹原高校生

四国の小中高生が対話を通じて交流を深めるイベント「四国対話万博-TAIWAKU」が14日、松山市文京町の愛媛大であり、

計約130人が意思決定や自己発信についての理解を深めた。対話を通じて校則などを直視し、生徒の主体性を育む「ルールメ

イキングプロジェクト」に取り組み丹原高校(西条市丹原町願連寺)が主催。同プロジェクトを全国で展開する認定NPO法人「カタリバ」(東京)が協力した。生徒らは17グループに分かれ、自分が暮らす地域の魅力を伝えたい。愛媛のたい飯や香川県のうどん、徳島県の剣山などを紹介しながら意見を出し合い「四国は、おいしいものが多く自然も豊か」などと対話を重ねた。

丹原高のほか、ルールメイキングに取り組み高松高(高松市)と協町高(徳島県美馬市)、土佐塾中高(高知市)の生徒による成果発表と対話を軸にした体験型のワークショップもあり、参加者は多肉植物の寄せ植えなど各校が開いたブースでの交流を楽しんだ。土佐塾中高3年の下条旬平さん(15)は「日常会話のスキルを磨こうと参加した。他人の考えや他校の魅力を深く知れて、対話の持つ力を実感できた」。丹原高1年山浦亜夢さん(16)は「対話の中で『納得』を導き出す大切さを学んだ。学校生活でルールメイキングの魅力を広めていきたい」と話した。

(伊藤義樹)



Rule Making Project

丹高のルールメイキングが大切にしている「対話」で、参加者一人一人が対話的な空間づくりを意識し、「いいかんじ」の「いいじかん」を創出できました！